



NEWS LETTER

VOL. 7
JAN 2019

センター長 年頭のご挨拶

明けましておめでとうございます。

グローバルヘルス人材戦略センターも創設以来2回目の新年を迎えました。昨年は、恒例のGoUN/Globalワークショップに加え、WHO 専門家委員会、グローバルファンド・Gaviなどの官民パートナーシップ、看護分野での活躍を希望される方々を対象としたターゲットを絞った研修会を行い、新規採用に結びつけることができました。開催にあたっては、国立国際医療研究センター、厚生労働省に加え、外務省、WHO、UNICEF、UNFPA、グローバルファンド、Gavi、京都大学、大阪大学、名古屋大学、北海道大学、聖路加国際大学、兵庫県立看護大学など多くの機関からご協力を頂き、持続的なパートナーシップ形成に繋がっています。加えて、昨年3月からは20以上の機関の求人サイトを当センターのウェブサイト上に開設し、保健関連ポストの検索を容易にいたしました。更に利便性を向上させ



るため、登録者にはピンポイントで空席が届くようなマッチング・システムを開発中です。今年も、スタッフが一致協力して、続々と国際機関に邦人を送り込むことができるように努力してまいりますので、変わらぬご指導、ご鞭撻を宜しく願います。

中谷 比呂樹

第3回国際臨床医学会学術集会オープン・フォーラム 「世界を舞台に保健の仕事しよう！」



2018年12月8日(土)、東京大学伊藤謝恩ホールにおいてグローバルヘルス人材戦略センター主催で標記オープン・フォーラムが開催されました。座長に国立国際医療研究センター(NCGM)国際医療協力局の三好知明人材開発部長を迎え、エリック・タグノン WHO 西太平洋地域事務局地域人事マネージャーからはWHOの人事動向について、矢島綾同専門官からはご自身の経験に基づき、国連職員のワーク・ライフ・バランスについてご報告頂きました。当センターの地引英理子人材情報解析官からは当センターの活動とこれまでの成果について説明し、NCGM国際医療協力局の大原佳央里医師からは日本の地域医療と国際保健の類似性についてご報告頂きました。当日は約70人の参加があり、会場からは「日本人職員数が望ましい数に達していない原因は何か」「日本人が国際機関で働く上で必要なことは何か」等の鋭い質問が熱心にされました。また、タグノン WHO 地域人事マネージャーからは「特に日本人の女性に積極的に応募してほしい」と志願者に対してエールが送られました。

「国連/国際機関へ行こう - 若き日本人専門職の方への グローバルヘルス・キャリア・ディベロップメント・ ワークショップ (Go UN/Global - The Global Health Career Development Workshop for Young Japanese Professionals)」

2018年12月9日(日)、国立国際医療研究センターと北海道大学、名古屋大学、大阪大学をZoom会議システムでつなぎ、標記ワークショップを開催しました。本ワークショップは、2017年12月、センターの開所記念として開催した第1回ワークショップに引き続き2回目の開催となるもので、講師にエリック・タグノン WHO 西太平洋地域事務局地域人事マネージャー、ローラ・ダビソン同プログラム・マネージメント・オフィサー、キャロル・ネトリンハム UNFPA アジア太平洋地域事務所シニア人事アドバイザー、宮口貴顕京都外国語大学准教授等を招き、国際機関に合格するための略歴の書き方、Competency-based Interviewの受け方、JPO制度、国連機関の紹介を行いました。当日は東京会場では、面接の受け方に関するグループ・ワークやWHO、UNFPA、UNV担当者による個別面談もあり、学びの多い盛り山の一日となりました。



■ 今後のイベントのお知らせ

Save the Dates

グローバルヘルス人材戦略センターでは今年度中に右記の活動を予定しています。日時が決まり次第、ウェブサイトとML登録者へのメールでお知らせします。

UNFPA ブートキャンプ (仮称、会場・時期未定)
UNFPA に将来的に就職したい方を対象に中長期的にキャリア形成をお手伝するための始動ワークショップを開催することを検討しています。

国連合同就職説明会 (仮称、会場・時期未定)
各国連機関が国内の数か所で説明会をするイメージで、主催する外務省と協議をしています。